

FOUN Sing for Smile Program



『国連の友／日本プロ野球名球会 被災地支援活動』 Vol.4

名球会 山崎裕之 2012年9月23日～

2012年9月23日、「心のケア」を目的とした支援活動“FOUN Sing for Smile Program”に今回、日本プロ野球名球会から山崎裕之さんに参加頂き、岩手県陸前高田市にある仮設住宅にて心のケア活動を行いました。



震災から1年6ヶ月が経過したにも関わらず、まだ瓦礫の処理が出来ていない場所もありましたが、その中に少しずつですが「仮設商店街」が立ち上がって活況を呈していました。



店舗が並ぶ仮設商店街

陸前高田市仮市庁舎に入り、伊藤明彦議長より震災後の現状報告を受けました。その中で「震災から1年6ヶ月が経過し、支援に来て頂いた方々が段々と少なくなりました。その為、被災者の多くは被災地の事を風化して、忘れられてしまう。それが一番怖い」と説明。

山崎様は「私達出来る事は、少しでも被災地の方々に元気付ける為に励まし、勇気づける事しか無いのでは。その為には何度も足を運ぶ事が必要だと考えております。」と話されました。



伊藤明彦議長より被災地の状況説明



陸前高田市仮市庁舎 議長室にて

伊藤議長に案内をうけ、陸前高田旧市庁舎に立ち寄りしました。

伊藤議長は「この鉄筋構造の3階建（一部4階建）で、津波は市庁舎屋上にまで及び、多くの職員が命を落としました。この震災の恐ろしさを、本当の復興が訪れるその日まで私達は伝えていかなければなりません」と当時の状況と今後取り組むべき課題を説明されました。



献花式の様子



当時の状況を説明する伊藤議長



津波の高さは屋上まで達しました

被災地を視察後、交流プログラムの場所となる高田高校第2グラウンド仮設住宅（岩手県陸前高田市高田町）を訪問。



交流会の様子



山崎様は現役時代、野球を通じて経験した貴重な時間は現在どの様に繋がっているのか、そこから得た教訓等を被災地で生活されている皆様に励ましの言葉として伝える為に今回、この交流プログラムに参加しました——と被災地訪問への強い思いを会場に集まった仮設入居者の方々に伝えました。



会場に集まった仮設住宅の皆さん



励ましのメッセージを送る山崎さん



仮設住宅の部屋を訪問

交流会に参加された女性からは、震災から今日に至るまでの約一年半、様々な環境の変化を体験し、今もまだ先行きの見えない不安な毎日を送っていると話しがあると、山崎様は「私自身、重い病気を患い精神的に辛い経験をしました。治療方法や気持ちの持ち方等を家族や周りの人に相談する事により、貴重なアドバイスをもらい、人は話す事で心の中に抱えている大きな不安感が軽減するのです。皆さんも被災によって先行きの見えない大きな不安を持たれていると思いますが、その事を信頼の出来る方や、どなたでも結構です。是非相談をされて下さい。きっと心が楽になります」と会場に集まった方々に話し、松田医師からも「医学的にも不安を抱えている問題を人に話す事は心のケアに効果がある」と説明補足をされました。

今回の交流会（心のケア活動）には仮設住宅で暮らす大勢の方々が集まりプログラムが終了しました。

今後も引き続き国連の友と名球会では被災地共同支援活動を行って参ります。